

全日本中学野球選手権大会 ジャイアンツカップ 兵庫県予選規定

大会約款(大会運営に関する特別規定)

本大会は、全国の少年硬式野球団体同士が交流することにより、少年野球の普及と発展を図ることを目的とする。
「第18回全日本中学野球選手権大会 ジャイアンツカップ兵庫県予選」の試合は、2025年度公認野球規則および下記の大会特別規定を適用する。

1. 本大会に参加できる選手は所属団体の規定を満たすものとする。ただし、本大会の参加資格は、2025年5月末日の時点で各所属団体に登録を完了したチーム(監督、コーチおよび選手)とする。
2. チームは、単独チームとし、25名以内(ただし、本戦は20名以内)の選手で編成し、ベンチに入る監督1名、コーチ(代表者、マネージャー、スコアラー等を含む)3名以内、計4名とする(成人のみ)。本大会登録締切日以降の選手の変更は原則として認めない。監督・コーチ(スコアラーを含む)に関しては登録の変更が認められる。但し、各リーグ所定の書式で申し出ること。
3. 選手、監督、コーチ(マネージャー、スコアラーは除く)は同一のユニフォームを着用すること。なお、背番号は所属の団体の規定に従う。
4. 各チームは必ず成人である代表者、またはそれに準じる者が引率し、大会中(集合日から解散まで)は、選手の行動ならびに観客席での応援などに対して責任を負うこと。
5. ゴミは球場施設内に捨てず、必ず持ち帰ること。スタンドで応援する選手、家族にも徹底すること。
6. 傷害処置については、大会中の負傷または疾病に対して応急処置は施すが、それ以上主催者は責を負わない。

競技に関する特別規則

1. 各チームの監督と主将は試合開始時刻40分前、または前試合4回終了後(コールドゲームのときは試合終了次第)、所定のオーダー表を球場責任者に提出し、同時に審判員立会いのもとで攻守の順を決める。なお、この際、所定の投球数制限報告書を用いて投手の前試合および前日までの投球数を記載)も併せて提出すること。
また、大会本部は提出されたオーダー表と登録原簿との照合を行なうとともに、試合開始前に用具の点検も行なう。
2. 各試合は7回戦、試合制限2時間で行い、4回終了をもって正式試合とする。
※試合開始から2時間を超えて次の回には入らない(7回または制限時間2時間の早い方)但し2時間に1分でも残っていれば次回に入り、先行がリードしている場合は表裏を実施、後攻がリードしている場合は表のみを実施する。
試合成立後に、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7・01(4)【注】を適用し、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。
試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとし、大会本部が指定した日時、場所で、中断した状況で再開する。

全日本中学野球選手権大会 ジャイアンツカップ 兵庫県予選規定

3. 4 回終了以降 10 点差の場合、コールドゲームとする。(ただし、代表決定戦にはコールドゲームを適用しない。)
4. 7 回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長 10 回あるいは試合開始から 2 時間を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、以下の方法でタイブレーク方式を実施する。
なお、代表決定戦については、試合開始から 2 時間 20 分を超えて新しいイニングに入らない。同点の場合はタイブレークを実施

＜タイブレーク実施細則＞

(1)延長回に関する特別規則

1. 延長 10 回あるいは試合開始から 2 時間を超えて(いずれか早い方)、両チームの得点が等しいとき、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行なうものとする。
2. 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
3. この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
4. この場合の代打および代走は認められる。

(2)チームおよび個人記録

チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。

5. 投手成績

- ・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
- ・完全試合は認めない。
- ・無安打無得点試合は認める。

6. 打撃成績

- ・規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
- ・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録する。

全日本中学野球選手権大会 ジャイアンツカップ 兵庫県予選規定

5. 投手は、一日最大 80 球以内とし、連続する 2 日間で 120 球以内とする。連続する 2 日間で合計 80 球を超えた場合、3 日目は投球を禁止する。3 連投する場合は、1 試合の投球数を 40 球以内とする。連続する 2 日間で 80 球を超える投球をした投手並びに 3 連投した投手は、登板日並びに翌日は捕手としても出場できない。
6. 選手が打席に入るときは、必ず両耳付きヘルメットをかぶること(次打者を含む)。また、走者も危険防止のため必ず着用すること。なお、捕手も防護用ヘルメットと所定の防具を着用すること(練習時も含む)。
7. 特別代走を認める。これは、特別な事情(死球による負傷など)により、一時的に休めば試合に出場できると審判員が判断したときに限り適用できる。この場合、その打者の最も近い打撃の完了した選手(投手を除く)を特別代走者とする。
8. 本大会では、金属バットならびに金属と他の材質との接合バットの使用を認める。
9. 監督(コーチ)が一試合(7 イニング)に同一投手のもとへ行ける回数を 2 回までとする(投手を交代させた場合は回数として数えない)。監督(コーチ)が 2 度投手のもとへ行ったら、3 度目以降に行けば、そのときの投手は自動的に交代しなければならない。この場合、他の守備につくことが出来るが、その試合で投手に戻る事は出来ない。また、監督(コーチ)が投手のもとへ行ったら場合を除き、守備側のタイムは 1 試合(7 イニング)につき 2 回までとする。なお野手(捕手は除く)が一試合(7 イニング)にマウンドに行ける回数を 2 回までとする。
なお、延長回に入った場合は、それ以前の回数に関係なく、監督(コーチ)が投手のもとへ行ける回数は 3 イニングにつき 1 度とする。野手がマウンドに行ける回数は 3 イニングにつき 1 度とする。
10. 監督またはコーチが同一投手のもとへ行くことに関して 1 イニング 2 度目に行けば、投手は交代する事とするが、野球規則 5.10(d) 8.06 を適用にもかかわらず、投手は自動的に試合から除かれることはなく、他の守備につくことができる。ただしその試合の投手に戻る事はできない。
11. 規則 5.10(d)【原注】前段のうち「同一イニングでは、投手が一度ある守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることはできない」は適用しない。
※適用外の解釈
投手⇒野手⇒投手 野球規則 5.10【現注】を適用
12. 「故意四球の申告制」を採用する。野球規則 5.05(b)(1) 細則参照
13. その他特に定めのない限り、公認野球規則を適用する。

大会特別規定・補則

1. 球場に到着したチームは、速やかに大会本部にその旨を報告し、オーダー表を受け取ること。
2. 各チームは大会本部の審査担当者から資格審査及び用具審査を受けること。
3. ベンチは組み合わせ表の上段(左側)のチームを一塁側とする。

全日本中学野球選手権大会 ジャイアンツカップ 兵庫県予選規定

4. グラウンドインから試合終了まで、監督、コーチ、スコアラー、登録選手以外はベンチに入ることができない。
5. グラウンドインしたチームは球場責任者の指示のもと、速やかに試合前の練習を行うこと。グラウンドルールがある場合はそれに従うこと。
6. 試合前のシートノックは5分間とする。(進行時間等により中止することもある。)なお、守備位置につかずシートノックの補助をする登録選手はヘルメットを着用すること。
7. 試合をスピーディーに行なうため以下の項目を守ること。
 - a. 攻守交代時に守備に移るチームが速やかにポジションにつくことはもちろんのこと、攻撃に移るチームも第一打者とベースコーチはミーティング(円陣)に加わらず、所定の位置に速やかにつくこと。
 - b. 投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球し、これを受けた投手は、ただちに投手板を踏んで、投球位置につき、捕手からのサインを受けること。
 - c. 打者は、みだりにバッターボックスを出ることは許されない。たとえ、タイムを要求しても審判員がタイムを宣告しないときはインプレイとする。
 - d. 次打者は、必ずネクスト・バッタースサークルに入り、低い姿勢で待機すること。
 - e. 捕手は、投手に返球したり、野手に声をかけるために、一球ごとにホームプレートの前に出ないこと。
8. コーチボックスには、選手が入る。必ずヘルメットを着用すること。(選手は両耳ヘルメットを着用)
9. 規則4.06に規定のとおり、監督、コーチ、選手、スコアラー(マネージャー)等いずれも相手選手を惑わすような行動をとってはならない。
10. 手袋、リストバンド、エルボーガード、フットガードの使用を認める。打者が走者になった場合、これらの脱着のためだけのタイムは認められない。ただし、打者走者が二塁ベースに到着した際に限り、これらの着脱のためのタイムを認める。(速やかにベースコーチがとりにいくこと)
11. サングラスは、日よけ防止のため身につけることができる。但しミラーレンズのサングラスは使用禁止とし、道具審査の際確認を受ける事。また、首輪(リング)については、ユニフォームの外から見えないように身につけるべきものとし、露見するものは禁止する。
12. 試合中、次試合のチームはグラウンド内で投球および送球練習をしてはならない。
13. グラウンド内でのブルペンで投球練習を行うときは安全対策上、打球監視員を必ず1名置くこと。試合中の投球及び送球練習は、ブルペンにて1組とする。
14. バットボーイ、ボールボーイ、シートノック補助員は登録選手が務める。
15. ダブルヘッダーが実施される場合、大会本部及び各球場の競技責任者の指示に従うこと。